

POWER!

2023年
7月
vol. 86

令和5年(2023年)
7月20日発行

発行所 ●日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ●5月、7月、10月、1月

<http://www.yakuren.jp>

都道府県薬剤師連盟 会長会が開催される

令和5年6月29日(木)、令和5年度第1回都道府県薬剤師連盟会長会がウェブにて開催された。丹下常任総務の司会で開会され、冒頭の挨拶では、山本会長より規制改革要望や物価高騰・賃金上昇への対応などへの感謝が述べられ、次期参議院議員選挙への対応の重要性も示された。続いて、本田あきこ参議院議員がご挨拶され、国の予算が限られている中で、薬剤師の立場を理解していただくためには、裏付けをもった発言が重要であると述べられた。次に神谷まさゆき参議院議員からご挨拶される予定であったが、公務のため祝辞の代読が行われた。その後、山本会長が座長となり議事が進行された。



川田幹事長より、第20回統一地方選挙、4/23衆参両議院補欠選挙について、ロビー活動として規制改革、少子化対策の財源確保、医療・介護における物価高騰・賃金上昇への対応を求める合同声明について、自由民主党薬剤師問題議員懇談会について報告があった。10分間の休憩の後、石井副会長からは、令和5年規制改革実施計画、令和6年度予算・税制改正要望についてなど最近の政治課題について報告がなされた。その後、浜田副会長から広報活動について、石井副会長から、薬剤師首長・地方議員意見交換会開催、ブロック協議会開催、「若手薬剤師フォーラム」について報告がなされた。大澤副会長から「本田あきこ物語」の活用について説明があり、橋本常任総務から「本田あきこ物語」が紹介された。

自由民主党薬剤師問題議員 懇談会が開催される!!

令和5年6月2日(金)、骨太の方針2023、規制改革実施計画が6月中旬に閣議決定される状況の中、日本薬剤師会の課題と要望を理解していただくよう、薬剤師問題議員懇談会(会長・鈴木俊一参議院議員)の世話人会と総会が開催された。

世話人会

12時より都内ホテルにおいて世話人会が開催され、15名の新規入会者と会計報告が了承されるとともに、日本薬剤師会の課題と要望について意見交換が行われた。

総会

16時より、自由民主党本部会議室において、事務局長である本田顕子参議院議員の進行のもと総会が開催された。

鈴木会長の挨拶に続き、新規入会者の紹介、会計報告が行われた。次に、山本日本薬剤師会会長の挨拶が行われ、続いて日本薬剤師会の課題と要望について資料を用いて日本薬剤師会の森副会長から説明がなされた。次期診療報酬改定に向けた必要財源の確保、安定した地域医療提供体制の維持に必要な社会保障財源の確保、物価・賃金の高騰を踏まえての財政支援、訪問看護ステーションへの医薬品配置の拡大等過剰な規制改革の抑制等について説明するとともに、来年度予算と税制改正に関する要望を伝えた。また、医療分野における物価・賃金高騰対策についての要望書が鈴木会長に手渡された。参加議員からは、日本薬剤師会が主張

する問題点について支持又は賛同する多数の意見が出された。

自由民主党薬剤師問題議員懇談会の会員は衆議院190名、参議院66名の256名となり、総会には本人出席57名、代理出席105名であった。



風力計



日本薬剤師連盟
副会長 荻野 構一

新型コロナウイルスによる感染拡大は、漸く落ち着きを見せてきました。私の地元夜の街でも、人々が戻って来て賑やかさを取り戻しつつあります。薬剤師会や薬剤師連盟の懇親会もご案内が増えてきました。

特に、連盟活動は皆さんの気持ちを通わせあって楽しく頑張ることが大切なことだと思っている。でも、老いも若きも杯を酌み交わす機会が持てないことは、人々を集めるときには必須とは言われないまでも大切な要素であることは確かなことかと思えます。

振り返ってみると、「神谷選挙」に向けて後援会活動がキックオフになった途端に新型コロナウイルスの感染拡大が始まりました。これから2年間をにかけて全国訪問を始める出鼻を挫かれるような出来事でした。日本全国で感染に対する警戒、不安が増大し、「訪問されては困る」の回答が届くなど、誰もが経験したことのないパンデミックにおける後援会活動が始まりました。

しかし、薬剤師はリアル訪問の代替案を考え、ネットの活用でリアル訪問を凌ぐほどのその活用方法を考案してくれました。都道府県ごとに趣向を凝らした演出もあり、どの候補者よりも早く後援会活動を進めていけたと思います。薬剤師の知恵に感謝です。

新人の無名候補者であり、3万票を前回選挙より落とすといえ、当選できませんでした。結果が出た投票日翌朝の6時4分にNHKからの当確が出た瞬間を今でも忘れません。

薬剤師の力を信じて、これからの本田あきこ議員の2期目に向けて、既に後援会活動が始まっています。社会環境がどのようなことになっても、止まることなく2年後に向けて全国一丸となって明るく楽しく後援会活動を進めていきたいと思います。

地方議員一覧



薬学教育の充実が必要。
国試を失敗した学生に対し、
大学がケアをできないか

地方の高齢者は
車もなく病院に通えない。
そういった声を
ひろっていく

地方議員は
薬剤師の現場と
行政の間を
持つ役割がある

離島医療の構築を
3年かけて行った

薬学生の支援を行い、
地域定着を目指す

ストーマのごみを
燃えるゴミで
処理できるような
働きかけをした

見える
議員が地元の
役となる

災害訓練を行い
課題を抽出した。



北海道
●赤平市議会議員
北市 勲



北海道
●網走市議会議員
永本 浩子



北海道
●滝川市議会議員
荒木 文一



北海道
●上富良野町議会議員
元井 晴奈



宮城県
●大河原町長
齋 清志



宮城県
●白石市議会議員
平間 知一



山形県
●山形市議会議員
齊藤 栄治



山形県
●天童市議会議員
山口 桂子



茨城県
●常総市議会議員
遠藤 章江



栃木県
●栃木県議会議員
山口 恒夫



群馬県
●桐生市議会議員
小島 強



千葉県
●千葉県議会議員
市原 淳



千葉県
●成田市議会議員
葛生 孝浩



千葉県
●市原市議会議員
小沢 美佳



千葉県
●香取市議会議員
藤木 裕士



神奈川県
●大井町議会議員
山崎 真弘



東京都
●西東京市議会議員
小峰 和美



石川県
●金沢市議会議員
宇野 裕基



岐阜県
●岐阜県議会議員
川上 哲也



愛知県
●愛知県議会議員
稲本 和仁



愛知県
●高浜市議会議員
北川 広人



愛知県
●東海市議会議員
井上 正人



愛知県
●一宮市議会議員
中村 一仁



愛知県
●みよし市議会議員
寺本 弘子



愛知県
●半田市議会議員
榊原 瑞輝



岡山県
●社市議会議員
木 理英



広島県
●安芸高田市議会議員
山根 温子



山口県
●周南市議会議員
小池 一正



三重県
●三重県議会議員
松浦 慶子



大阪府
●茨木市議会議員
河本 光宏



大阪府
●大阪市議会議員
鈴木 理恵



大阪府
●大阪市議会議員
辻 淳子



兵庫県
●太子町議会議員
北川 嘉明



和歌山県
●高野町長
平野 嘉也

薬剤師国会議員・首長・地



薬剤師国会議員



衆議院議員
立憲民主党
逢坂 誠二



参議院議員
自由民主党
本田 顕子



参議院議員
自由民主党
神谷 政幸

薬剤師首長・地方議員意見交換会 開催

6月1日(木)AP日本橋において薬剤師首長・地方議員意見交換会が開催され、富永常任総務の司会で会議が進められた。冒頭、山本会長より「議員の皆様には薬剤師が伸び伸びと働ける環境のために、地方から支えていただきたい」と挨拶があった。続いて、本連盟役員より「日本薬剤師連盟の現状報告」として、薬剤師地方議員の現状と直近の政治課題について、次期参議院議員通常選挙にむけて説明がなされた。

次に出席した薬剤師首長・地方議員より近況報告とご意見をいただき、最後に質疑応答が行われた。

意見交換会終了後には、4年ぶりに懇親会が行われた。公務により意見交換会に参加できなかった、薬剤師国会議員3名(逢坂誠二衆議院議員、本田顕子参議院議員、神谷政幸参議院議員)も駆けつけ、ご挨拶をいただいた。また、地方選挙で当選された議員への祝福など交流が行われ、盛会裏に終了した。

コロナ禍の際にワクチン事業や無料検査、抗原検査キットなど尽力した。是非、この積み上げを国政へ声高に上げていただきたい

地元の薬剤師議員が側にいるという事をわかってもらうことで本田選挙に協力をお願いしやすくなる

等身大のパネルを町長室においてアピールした。今度の選挙でも行う予定



鹿児島県
●鹿児島県議会議員
寶来 良治



鹿児島県
●鹿児島県議会議員
池畑 知行



鹿児島県
●薩摩川内市議会議員
阿久根 憲造



福岡県
●福岡県議会議員
江頭 祥一



佐賀
●唐津市長
峰 達郎



長崎県
●長崎県議会議員
宮本 法広



長崎県
●長崎市議会議員
澤勢 瑞城



熊本県
●玉名市議会議員
北本 将幸



熊本県
●荒尾市議会議員
多田 隈 穰



香川県
●香川県議会議員
宮岡 陽子



島根県
●浜田市議会議員
川神 裕司



●総務省
村木 浩一

地域医療の
危機的現状を
知っていただきたい

候補者が常に有権者に
寄り添えるよう
精進していきたい

老若男女とも
未病が健康増進に
つながるため
推進していきたい

課題を解決するには
政治の力が必要

報酬が厳しいため、
今後やっていけない

地元の支えが必要

子育てと仕事の
両立ができる環境を
整えていきたい

無所属の議員は
県薬連盟の何かの職に
就いていただいては
どうか

規制改革に反対。
薬剤師の資格、責任を
守る必要がある

市民に
薬剤師
パイプ

本田あきこ議員の政治活動報告



このたび「日薬連盟だよりPOWER」紙面スペースをいただきましたことに感謝いたします。今後、永田町界限での日常や各都道府県薬剤師連盟の皆様との出会いなど、様々な議員活動を紹介させていただきます。

去る5月8日に新型コロナウイルス感染症との向き合い方が変わり、各自で感染防止に努め、医療提供体制を維持しながら社会経済活動を回復させていくことになりました。思い起こせば、当選後の議員活動の大半がコロナ禍にありましたので、今号は新型コロナ対策にまつわる話題といたします。

1. いわゆる「新型コロナ国会」

2020年2月3日に横浜港に寄港した客船の乗客の中に感染者が確認されてからは、当時開会中の第201回通常国会(2020年1月20日～6月17日)は「コロナ色」となり、その中で、緊急事態宣言の発令根拠となる「新型インフルエンザ等対策特別措置法」の改正や新型コロナ対策のための補正予算の成立に関わりました。

2. 閉会中審査(2020年8月20日 参議院厚生労働委員会)

重大案件である新型コロナ対策を審議する必要性から、国会は閉会中でしたが委員会が開かれ、質疑の機会を得ました。

厚生労働省に対して、治療薬やワクチンの開発・確保状況を質するとともに、科学的根拠に乏しい情報の流布等によって買い占めや転売等が起こり、医薬品卸や薬局等の現場に混乱が生じていることを政府に訴えました。また、補正予算による薬局支援に触れ、担当局長からコロナ禍で薬局機能を維持する必要性とそれまでの取組への感謝に関する答弁を得ました。

3. 緊急事態宣言の解除に先立つ質疑

第204回通常国会(2021年1月18日～6月16日)会期中の3月18日、参議院議員連立委員会にて菅義偉総理大臣及び西村康稔国務大臣から緊急事態宣言を終了するとの報告を受けた後、会派を代表して質疑に立ちました。宣言解除後の感染再拡大防止策の徹底を求める中で、ワクチン接



菅総理(当時)との質疑(3. 関連)



法案審議で答弁する様子(4. 関連)

種を不安に思う多くの声への情報提供の必要性について菅総理に迫り、「科学的知見に基づいて、正しい情報を分かりやすく丁寧にお伝えしなければならない」、「安心をして接種できるように、全力を挙げていきたい」との答弁を得ました。

4. 新型コロナ対策に関連する法案の成立

第211回通常国会(2023年1月23日～6月21日)では厚生労働大臣政務官として衆参両院で政府答弁を重ね、法案成立に関わりました(答弁数は質問議員数換算)。

新型コロナ対策に関連する法案の件名	答弁数
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律案(感染症法改正法案)	8件
国立健康危機管理研究機構法案 国立健康危機管理研究機構法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律案	1件
新型インフルエンザ等対策特別措置法及び内閣法の一部を改正する法律案(新型インフル特措法等改正法案)	10件

オレフジ日記

参議院議員・薬剤師 本田顕子



薬物の乱用と適正使用

2018年8月に策定された「第五次薬物乱用防止五か年戦略」が5年目となり、今夏の策定に向けて「第六次」の検討が大詰めを迎えています。

わが国では、大麻等の違法薬物をこれまでの人生で一度でも使った経験がある人の占める割合(薬物生涯経験率)は欧米先進国よりも低い水準ではあるものの、大麻事犯は2021年に検挙人数(5,783人)が過去最多を更新し、特に30歳未満の検挙人数が急増し、全体に占める割合も68.0%に達しています。

このような状況の下、「第六次」ではわが国が大麻乱用期の渦中にあることを念頭に、デジタルツール等を用いた若年層への効果的な啓発活動などを強化する方向で議論が進められています。

依然として後を絶たない薬物乱用に対して地域の薬剤師の先生方が果たす役割は大きく、6月20日から7月19日まで全国展開している「ダメ。ゼッタイ。」普及運動や「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」(毎年10～11月)、さらには学習指導要領に基づく小学校5、6年生向けの学校教育等において、薬物の危険性・有害性をより多くの人に伝えるための弛まない活動にご尽力いただいています。

他方、疼痛緩和に医療用麻薬が標準的な医療として使用されるようになり、また、大麻からつくられる薬の医療用途での活用が間近な話題となっていることを踏まえれば、乱用防止への関わりのみならず、これらの医療における適正使用の担い手としての役割も薬剤師が果たしていくことになります。

薬物から国民の健康を守るのも、薬物の適正使用を通じて国民の健康を確保するのも薬剤師。あらためて薬剤師の役割の大きさを感じます。

政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷政幸



通常国会を終えて

今年の1月23日に召集された第211回通常国会が6月21日に終了しました。今回の通常国会では3回質問に立ちました。1回目は4月13日の内閣委員会で審議された「新型インフルエンザ等対策特別措置法及び内閣法の一部を改正する法律」(質疑時間15分)、2回目は4月19日の資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会(以下、資源調査会)で行われた「資源エネルギーと持続可能社会をめぐる情勢」(質疑時間10分)、3回目は4月25日の厚生労働委員会で審議された「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」(質疑時間35分)です。一つの質疑に対して約3分と考えて、15分の内閣委員会では6問、10分の資源調査会では3問、35分の厚生労働委員会では13問を作成しました。

国会の質問は法案に対する各省庁からの情報収集も重要ですが、それ以上に現場の先生方の声や状況を、事前によく伺っておくことが大事だと、今回強く感じました。内閣委員会ではコロナ禍において検査キット等の供給について現場で混乱が生じていたこと、資源調査会では安定ヨウ素剤の住民配布における問題、厚生労働委員会では後発品の安定供給や電子処方箋に関する問題など、先生方からお聞かせいただいた多くの声を、現場の声として国会



に届けることができたと思います。国会閉会中はぜひ多くの先生方とお話をさせていただき、勉強したいと考えています。薬剤師の代表として、これからも国民の皆様が健康で活躍できる社会づくりのために、しっかりと活動してまいります。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

編集後記

どろめ祭り

4年ぶりに「第66回土佐赤岡どろめ祭り」が開催されました。

ちなみに、「どろめ」とはイワシの稚魚(シラス)のことで珍味として珍重される高知の郷土料理です。葉ニンニクをすりつぶして酢味噌にする土佐めたやチリ酢や三杯酢をかけて生で食べます。

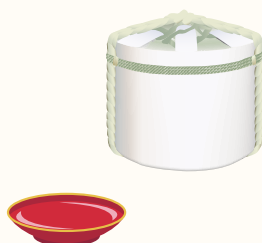
お祭りのメインイベントは浜辺で行われる「大杯飲み干し大会」で、男性は一升(1.8L)、女性は五合(0.9L)を大きな杯で一気に飲み干し、時間とその飲みっぷりの総合得点を競うという土佐らしいお祭りで4月頃に開催されます。

参加者が大杯を傾けると、お祭り役の司会者が「うーっとと、ぐうーっと」吸うて、吸うてー!と会場を盛りあげます。大杯はこぼれやすく、参加者は苦戦しながら一気に地酒を飲み干します。

今年の優勝者は、男性は、越知町出身の42才、タイムは20.4秒、女性は東京都在住のチューバーが10.0秒という結果でした。

参加申し込み後、抽選で健康状態を医師による診断を経て出場者を決定しますので安心して参加できます。是非挑戦者として高知に来て下さい。

(ばしりH)



広報委員

原口 亨、石井 甲一
浜田 嘉則、橋本 昌子
和泉啓司郎、小屋敷淳子
堀越 博一、渡邊美知子